

# Access Report

2020年10月15日号  
アクセス教育情報センター

## 目次

学校情報	学校情報	公開模試情報	教育情報	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・桐朋中</li> <li>・浦和明の星</li> <li>・札幌聖心女子</li> <li>・秀光中</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月学校別志望者数(抜粋)</li> <li>男子</li> <li>女子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育基本法</li> <li>・大学オンライン入試</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名言・迷言・冥言</li> <li>・法政大学</li> <li>・大坂なおみ</li> <li>・菅首相</li> </ul>

## 学校情報

### 桐朋中 塾対象説明会WEB(後半)(2020年9月16日)

#### 3)入試概況 高校部長 小野島先生

##### 1. 2020年度の中学・高校入試結果

	第 1 回	第 2 回
募集人員	約120名 (120)	約60名 (60)
応募者数	411名 (393)	674名 (716)
欠席者数	45名 (39)	202名 (190)
受験者数	366名 (354)	472名 (526)
合格者数	159名 (160)	247名 (242)
合格最低点	199点 (190)	211点 (211)
繰り上げ入学者	0名 (10)	

( )は昨年度

2回入試も5年目となった本年、昨年と比べ募集人員、出願方法などについての変更はありませんでした。なお、来年度入試についても変更の予定はありません。

応募者につきましては一昨年に募集人数を増やした第1回が増加しましたが、第2回は減少しました。ダブル出願者は247名で昨年の278名から31名減少しました。ダブル出願者については桐朋

教育の理念に強く賛同して下さる方々だと思いますので、ダブル出願者が増加するよう努めてまいります。ダブル出願者のうち1回目で合格した人数が108名、その後、回目で復活合格した人数は4名でした。

欠席者は第1回、第2回ともに多めで、2回入試にしてからは最多となりました。

合格者数については昨年とほぼ同数としましたが辞退者数が少なく定員+24名となりました。従いまして、繰り上げ合格は、昨年10名出しましたが今年はおしませんでした。

合格最低点は第1回が上がり、第2回は昨年と同じでした。第1回は昨年と比べて国語と算数の平均点が上がっています。これが第1回の合格最低点が上がった要因と思われます。地域別応募者については2回入試にしてから23区内からの受験生が増加しましたが、今年もその傾向は続いています。神奈川、埼玉についてはさらに応募していただけるよう努めてまいりたいと思っております。2021年入試は、先ほど申し上げたとおり変更の予定はありません。詳細につきましては9月発表の2021年度中学入試要項で発表いたします。

続いて2020年度の高校入試結果です。

	応募者	欠席者	受験者	合格者	入学者
2020年度	246	9	237	175	75
2019年度	256	4	252	195	74
2018年度	262	7	255	180	60

試験日、試験科目、出願期間などの変更はありませんでしたが、2020年度入試から出願時に提出いただきます各中学校からの調査書については本校指定の書式に変更しました。

応募者は2019年と比べ10名減少しました。加えて欠席者も若干増加しましたので、結果として実受験者は15名減少しました。

合格者数は桐朋中学から進学する生徒が前年よりも増えたことを考慮し、2019年度よりも少なめの175名といたしました。それでも入学者は昨年度とほぼ同じ数となりました。

各教科の出題内容、出来については教科の担当者からご報告いたしますので、私からは合計の平均点と合格最低点について説明したいと思います。合計の平均点は2019年度と比べて21.5点上がりました。2019年度には国語と英語の平均点が大幅に下がりましたが、今年は何の教科も平均点が前年度を大きく上回りました。合格最低点も合計の平均点とほぼ同じく22点上がりました。合格最低点は過去3年で最も高い点数でした。

2021年度入試についても試験日、試験科目、出願期間などの変更の予定はありませんが、中学校での休校措置による影響を考慮して、各科目で範囲を変更しました。国語は中学3年生の教科書で学習する新出漢字を直接問う問題は出題しません。ただし、それらの漢字が文章中に出てくることはあります。数学は中学3年生で学習する内容のうち、三平方の定理、標本調査の内容は出題しません。英語は関係代名詞を直接問う問題は出題しません。ただし文章中に関係代名詞が含まれることはあります。詳細につきましては9月発表の2021年度高校入試要項で発表いたします。

なお、中学入試、高校入試とも、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によって変更が生じた場合には本校ホームページにより周知いたします。

#### 4) 中学入試問題に関して

## 1. 国語 伊藤先生

## 本文



受験生にとって未知の世界や想像の世界から現実を捉え直し、あらゆる物事に対する多角的な視野を持つ

## 設問

文章の流れを捉えた正確な読解と  
文意を咀嚼した上での主体的な表現

本校の入試問題は一般的な国語の試験と大きく変わるところはありません。傾向としましては読解中心の問が並び、しいて言えば、記述の分量がやや多く、また、本文の内容だけでなく自分のことについて論理的に説明できるかを問うことがあるのが特徴です。本文については受験生にとって未知の世界や想像の世界から現実を捉え直し、あらゆる物事に対する多角的な視野を持つような文章を採用することにしております。受験生のこれまでの価値観を揺さぶるもの、新しいものの考え方、新しいものの見方を与えてくれるもの、その話を読んで何かを感じ、こんなことを考えたと言ってくれる受験生に来てほしいと考えています。

設問については、文書の流れを取られた正確な読解と文意を咀嚼した上での主体的な表現、本文を一通り読んだ上で、なるほどこういう話でこういうことを言いたいのかと言ったことを踏まえて解答してほしいと考えております。国語の問題を解く上では日頃の読書の体験が支えになる必要があることは言うまでもありません。日頃からどれだけ活字に触れているか、作品を自分に引きつけて考えられているかどうかは素養となり、それが国語の力となることは言うまでもありません。本文を正確に読み取ること、転換を理解すること、作品全体から場面の意味をとらえること、木を見て森を見ずとならぬように解答してくれることを期待しています。

昨年度入試に関して、1日目の入試も2日目の入試も、漢字の出来栄え、選択肢問題の出来栄え、抜き出し問題の出来栄えなどは、いずれもかなり高い水準で正解となっていました。それではどこで差がつくのかと言いますと、やはり記述の問題で差がつくように思います。

## 〈記述に際して〉



- 問を正確に把握する
- 解答の条件を確認する
- 答えるべき要素を複数挙げる
- 内容をかみ砕き、自分のことばで書く

記述に際しては問を正確に把握すること、解答の条件を確認すること、答えるべき要素を複数あげることを、内容をかみくだき、自分の言葉で書くこと、何を問われ、何を答えなければならないのか、何字で解答するのか、簡潔に書くのか、分かりやすく書くのか、本文の言葉を用いるのか

か自分の言葉で書くのか、こうした前提条件を外れてしまうと解答としては難しいものになってしまうと考えております。

では、昨年度の実際の問題ご覧いただきながらお話をいたします。2月1日の入試問題の大問一の問題です。この問題は小説からの出題でした。本文についてまず簡単にご紹介いたしますと、この話は、ある学校の先生がかつての教え子である青年から手紙をもらうところから始まります。その手紙の中で、青年の印象に残っていることとして、中学1年生の国語の最初の授業で扱われたという、預かり屋のことが描かれます。これは、どんなものでも1日100円で預かってくれるという不思議な

お店で、授業では一人ひとり、風変わった自己紹介として何を預けたいか発表するということになったそうです。話としては、その際の青年の隠された過去の事、それからそれに対する苦しみや悩みが語られて物語は進行します。我々もその内容についてさまざまなことを問うわけですが、その最後に受験者にこのような問を投げかけてみました。

問10、さて、君自身は、中1の最初の授業で問いかけられたとしたら、何を預けたいと答えるだろうか。その理由とともに詳しく述べなさい。

受験生の解答はさまざまでしたが、多かったのは塾のテキストであるとか塾のバッグというものでした。あるいは弱い自分の心、誘惑に負けてしまう心など形のないものをあげる受験生もいました。ゲームを上げる受験生も多かったのですが、実は本文の中にその記載があるので解答としては少し寂しいものでした。同様にスマホと答えた受験生も多くいました。この問いに関してはもちろん正解というものは想定しておりません。我々も受験生がどのような解答をするのか楽しみにしている問いですし、採点の際には、こんなのを預けたいという子がいたよ、こんな理由をあげる子がいたよと話をしてしまう、そういった楽しいものでした。我々が着目していたのは一つ。論理立って説明がなされているか、この一点のみです。つまり、大切だけれども預けたいのであれば、ではなぜそれを預けなければならないのか。要らないものなんだけれども捨てられないというのであれば、なぜそれを捨てられないのか。この点についてなるほどと思わせてくれるかどうかがかかれ目だったかと思えます。実際の解答として受験生の中には本、全集、図鑑をあげた人が多く、物が増えてきて置き場所に困ってしまっているから、亡くなった家族に買ってもらった大切なものだから、将来自分の息子ができた際に送りたいからといった理由をあげるものがありました。あるいは、自分の趣味としているものについて、一旦距離を置いてみて本当に大切なものであるのか見極めたいといった解答もありました。このように自分に引きつけてイキイキと書いてくれると、こういう子にはぜひ来てほしいと思わされますし、この程度でいいかなといううわべを語っているのではない、熱意のある言葉で書いてくれると良い答案になると思います。空欄の答案はほとんどありませんでした。よく書けていると9割あるいは8割の得点が出る一方で、1点、2点にしかならないものもありました。記述は、この問いだけではないのですが、この問いが一つの大きなかかれ目となったかもしれません。以上、私の説明が受験生の参考になれば幸いです

## 2. 算数 佐々木先生

受験の結果の分析が受験を考えている小学生の役に少しでも立てばと思います。

- 基礎から応用まで幅広く出題
- 難易度順に出題
- 記述問題を必ず出題
- 手を動かすことで構造が理解できる問題を出題

入試問題の作成において、基礎から応用まで、また特定の分野に偏らないような出題を心がけています。問題はほぼ難易度順に並び、記述問題を必ず出題しています。記述をする際は式だけではなく図や表などを用いても構いません。考え方が分かるようなものが書いてあれば結構ですので、日頃から途中の考え方を丁寧に書き残す勉強してください。後半の問題に象徴される通り、問題文

をしっかり読み、手を動かして構造を理解させたり、規則性を見つけさせるような問題の出題を心がけています。また各大問の(1)、(2)が(3)のヒントになっている場合もあります。基礎的な計算力と図形の知識を習得し、なおかつ粘り強く考えられる力を身につけて桐朋に入学してもらいたいと考えています。

問題ごとの難易度についてお話します。前半から中盤までを確実に得点し、後半の問題の意味を理解して粘り強く手を動かすことができれば合格に近づくかと思えます。

2月1日第1回入試の講評です。

問1 基本的な計算問題

とてもよくできていた

問2 基本的な文章題

問題文をよく読む(答えの吟味をする)

問3 お茶の売値(記述問題)

考え方を丁寧に残す 面積図で考えるとよい

問4 玉の個数の比

差がついた

問5 3桁の整数の和

(1)(2)はよくできていた

問6 3つの動点

(1)(2)はできていた (3)は難

問7 正方形の分割

(1)はよくできていた (2)(3)は難

問1について全体の70%は満点です。採点していて気がついたことは(3)の最後に和を計算するところを差を計算している答案がありました。また答えが既約分数でないものがありました。これらについては減点しています。桐朋の算数の問1は完答すべき問題です。意地悪な計算にならないよう、十分な時間をかけて検討しています。問題文をよく読んで焦らずに落ち着いて計算をして欲しいと思います。問2について(1)、(2)で問題文をよく読んでいないと思われる答案がありました。具体的には(1)では、兄と弟が飲んだジュースの合計量を答えている答案。また(2)では10人で作業した日数を答えている答案が目立ちました。こういった答案には部分点を与えています。(3)の出来はあまり良くありませんでした。典型的な間違いかと思いますが、半径2cmの円として面積を計算すべきところを半径1cmにして計算している答案目立ちました。問題文に図を与えなかったことが原因の一つかもしれませんが、受験生には自分で図をかくように指導してください。問3について全体の50%は満点でした。記述を課した問題で、面積図を書けば簡単に解ける問題ですが、使っている受験生が少なかったように思います。間違えた答案として多かったのは、答えが整数であるからそこから目の子で絞り込むとしているものや、受験者本人が何を計算しているのか理解できていないだろうと思われる答案が目立ちました。また、お茶1本の値段が720円や100.5円など現実にそぐわない答案も見受けられました。繰り返しになりますが答えの数値に関しては慎重に検討しています。失点すべきでない前半の問題で、変な数値になった場合、解き直しをするように受験生に伝えていただければと思います。問4について全体の30%は満点でしたが、受験生の間で差がつかれました。アが出ればイがすぐに出る問題です。そういった面でも得点の差がつきやすかったようです。こういった比の問題、また不変量に着目する問題の練習をしておいてもらいたいと思います。問5について全体の15%は満点で、0点はほほいらない問題でした。問題も理解できれば(1)、(2)は正答しやすいと思います。問題文をしっかり読み、正確に読み取ろうとする習慣のある受験生が得点できる問題となりました。問6について満点だった受験生はわずかです。(1)、(2)には手が出ていましたが(3)は難しかったようです。図を書いて大雑把に見当をつけ答えを導いて欲しいと思います。問7について満点だった受験生はわずかです。問5と同様に問題文を理解できれば(1)は正

答できるかと思います。(2)、(3)は時間内で解くのが難しかったようです。  
合格する得点の仕方として、問1、問2、問3はほぼ完答し、問4と問5をそれぞれ半分程度正答して、問6、問7で問題を理解して手を動かすことができれば合格ラインに乗るかと思います。  
続いて2月2日第2回入試の講評です。

**問1 基本的な計算問題**

とてもよくできていた

**問2 基本的な文章題や図形の問題**

とてもよくできていた

**問3 ある中学校の生徒数(記述)**

とてもよくできていた

**問4 場合分けを伴う整数の問題**

(1)はよくできていた

**問5 2つのポンプによる水量変化**

(1)(2)はよくできていた

**問6 内サイクロイド、外サイクロイド**

(1)はできていた

**問7 直方体の表面に現れる数の和**

近年の間7の中では最も出来がよい

問1、問2について、全体の80%は満点でした。問3についても全体の80%が満点でした。問1から問3は完答できないと合格は難しかったと思います。問3について、問題文を読み取って表にまとめることが簡単な問題であったため、答えの道筋が立てやすかったのだと思います。問4について全体の40%弱は満点でした。(1)はほぼ全員正解です。(2)は場合分けする問題です。答えが複数ありますが、1つでも合えば部分点を与えています。問5は全体の40%が満点でした。問4と問5が合否を分ける問題となりました。作問段階では問4よりも問5の方が難しいだろうと考えていたのですが、実際はと問4よりも問5の方が出来が良い結果となりました。問4は場合分けの問題であり、問5は算数的な問題であるので、受験生にとっては問5の方が相性が良かったのかと思います。問6についてほとんどの受験生は(1)のみ正答でした。円の動きを追うのが難しかったのかと思います。問7について満点もしくはほぼ満点といった受験生15%いました。近年の間7の問題としてはかなり出来が良かったように思います。前半の問題ではほとんど差がつかず、また問6はほとんど解けなかったため、問4、問5、問7をどこまで解けるかが合否を分けたように思います。また、昨年度の問題よりも誘導を丁寧につけたことが全体の平均点を挙げ、標準偏差を小さくしたように思います。

### 3. 社会 家所先生

まず基本方針と問題構成ですがご覧頂いている通り例年と変わりません。

- 基本方針…「知的関心」を喚起できるような問題  
全体の得点率=7割を目標に

- 問題構成…歴史・地理・公民の順で大問を配置

いたずらに細かい知識を問うのではなく、教科書、地図帳を中心とした学習を積み重ねることで得点できる問題作り、その上で知的関心を喚起できるような内容を目指しています。

また受験生に一定の達成感を得てもらうために、全体の得点率がおおよそ7割になるような難易度を心がけています。問題構成は歴史分野、地理分野、公民分野の三つからなるのも例年通りです。

第1回入試について

●歴史「疾病・感染症の流行の歴史を通して時代認識を問う」



- ◎ 「米騒動」を答える問題は、正答率は低かった。
- ◎ 「日英通商航海条約」と「日英同盟」を混同している論述が多かった。
- ◎ 語句解答でも説明問題でも、漢字ミスが目立つ。

●地理「『水』に関連する問い」

- ◎ 「バーチャル・ウォーター」という語句を答える設問、「ブラジルに次ぐコーヒー豆生産国」であるベトナムの位置を問う問題で、正答率が低かった。
- ◎ 国内各都市(網走・熊本・那覇・松本)の雨温図読み取りは、想定を下回る正答率であった。

●公民「家族の変容に伴う、介護を中心とした今日の社会的課題」

- ◎ 「介護従事者」と「要介護者」の『増え方』に差があることに気づけていない解答が多く、出題意図の把握、出題意図に即した資料の読み取りが不十分という印象。

歴史分野ですが、期せずして新型コロナウイルス感染拡大が社会問題化する中での感染症をテーマとした出題となりました。ペスト、コレラ、スペイン風邪など教科書には明確な記述はない事柄ではあるものの、各時代を特定しうる材料を例文中に含ませたので、受験生は対応に困らなかったようです。

時代認識を問う問1の年代順並べかえ問題の正答率は約90%でした。一方、米騒動を問う問3は正答率が約20%でした。第1次大戦中に起きた民衆運動は何かという設問形式に引きずられてか、自由民権運動、護憲運動といった誤答が目立ちました。また、そもそも米騒動を民衆運動として認識していない受験生が多かったかもしれません。問6の論述では日英通商航海条約について問いました。説明文では日清戦争の直前に日本とイギリスが結んだ条約の内容を説明しなさいという表現を用いました。領事裁判権撤廃、日清戦争もともに教科書に記述があるもののこの両者を結びつけられなかったのか、日露戦争前の日英同盟と混同している解答が目立ちました。毎年のことですが、漢字のミスが見受けられました。何事にも丁寧に対応することが受験勉強には必要ですし、漢字をしっかりと書くことはその基本と考えます。

続いて地理分野です。水をテーマとした出題でした。まず問2では、小麦など穀物等を輸入している場合、その生産に必要な水も輸入しているという文脈で、仮想水という語句を冒頭の例文中に示し、これにあたる表現としてバーチャルウォーターという語句を答える問は正答率が低かったです。同様に、ブラジルに次ぐコーヒー豆生産国であるベトナムの位置を問う問3も正答率が低かったです。また、問6の網走、熊本、那覇、松本、各都市の雨温図の問題も、各都市の位置が相当に離れている、すなわち、気候条件が相当に異なっているにも関わらず正答率は低かったです。今回、地理分野では初めて短い記述問題を出しました。問5になります。毎日、長距離の水くみを強いられている少女の話です。問題文をしっかりと読めば解答できる出題形式にしたつもりです。解答内容は概ね出題意図に沿うものでしたが、中には出題意図をつかみあぐねている解答もいくつかありました。

続いて公民分野です。今回のテーマは介護ということで人口構成、家族の姿の変化に伴い、お年寄りの介護をめぐるどのような課題があるのかについて、一定のイメージがあれば解答できる内容にしたつもりだったのですが、出来は想定以下でした。問6の論述のポイントは介護従事者の増え方よりも要介護者の増え方の方が大きいということですが、介護現場における人手不足が生じているという端的な事実を把握できていないせいなのか、問題文をよく読まず、覚えたことを反射的にアウ

トプットして解答しているという印象でした。

分野別の得点率はおよそ歴史分野71%、地理分野65%、公民分野54.5%でした。

第2回入試について

- 歴史「『技術』をテーマに、時代認識を問う」
  - ◎ 全体的に正答率は高かったが、近世初頭(江戸期)の日朝貿易と論述問題で得点が芳しくなかった。
  - ◎ 「賤称廃止令(=身分解放令)」に関連した論述で、引き続き残存した「差別問題」をアイヌ差別・女性差別などとする解答が多数あった。
- 地理「リニア新幹線に関連する問い」
  - ◎ 全体的に正答率は高かった。
  - ◎ 「ユーロトンネル=英仏間を結ぶ」「長野県の旧国名=信濃」「東京駅50キロ圏内の都市=八王子」を問う問題で、正答率が低かった。
- 公民「景気変動と税制」
  - ◎ 景気動向と税収(法人税と消費税)の関係を問う論述問題で、出題意図を掴んでいない解答が目立った(問題文や図をしっかりと読んでいない)。



歴史分野では、テーマは技術でしたが総じて出来は良かったです。ただし、江戸期の日本と朝鮮との貿易を問う問5と問9の差別をめぐる論述問題の出来は芳しくありませんでした。対馬藩を窓口にした江戸期の日朝貿易の事例として、この場合、正解は日本から朝鮮への輸出が銅、朝鮮からの日本の輸入が木綿となるわけですが、時代のイメージ、経済の発達段階のイメージ、産地と相手国のイメージ、それぞれが噛み合わないと正答できない問いだったようです。続いて問9の論述問題です。賤称廃止令、教科書でいう身分解放令について問う問題で、問題文をきちんと読めばどんな差別を問っているのか、今日でいう部落差別になりますが、それは明らかかなはずなのですが差別という言葉に引きずられたのかアイヌ差別や女性差別などピントのずれた解答が多く見られました。地理分野も総じて出来は良かったです。ただし、問6の英仏間を結ぶユーロトンネル、問7の長野の旧国名・信濃、東京駅50km圏内の都市・八王子。これらを問う問題では正答率が低かったです。公民分野です。正誤問題の正答率は高かったのですが、問5の論述の出来が予想以上に悪かったです。論述のポイントは、法人税は景気の影響を受けるが、消費税は景気の影響をさほど受けないということになります。

分野別の得点率は、およそ、歴史分野79%、地理分野78%、公民分野67%でした。

最後に受験生に期待するところを述べます。画面にお示しするところが我々が変わらず受験生に求めているところ、我々の問題作成上の基本姿勢ということになります。歴史資料や地図帳を使っての学習。読んで、考え、分かったことを論理的に表現する力。時事問題への関心。となります。それを補足しますと、我々としては、受験生に取り組んでもらう上で良い問題、外に出しても恥ずかしくない問題を作成しなければならないと思っています。であればこそ、それぞれの問題には狙いがあり意図があるわけです。受験本番では解答時間が限られている中、問題を見てすぐに反応する形で答えを書くということになりがちだとは思いますが、受験生にお願いしたいのは、問題をよく読んで、何を答えさせようとしているのかをよく考えて答案作成に臨んでほしいということです。今後も、教科書を中心とした基本的な内容を出題するという方針に変わりはありません。

4. 理科 上原先生

- ・ 物理, 化学, 生物, 地学の4分野

それぞれの分野ごとに基礎から応用まで出題

- ・ 日常生活の中にある「理科」

身近な現象や実験などを題材→**基本知識と考察**

理科の入試問題は物理、化学、生物、地学の4分野から偏りなく出題しています。基礎的な知識、理解を問う問題から、その場で与えられた概念などを使って解く思考重視型の応用問題までバランスのとれた出題を心がけています。名称や現象をただ暗記するだけで対応できるような問題は少なく、日常生活とつながる理科の題材を取り上げ、身近な生活の中にある理科を意識した問題作りをしています。教科書で習った基礎的な知識を積み上げてきた小学6年生でも考えられるような出題を心がけていますので、奇をてらった問題は出題していません。

#### 第1回目の入試問題について

大問1: 物理のテーマは「密度と物の浮き沈み」でした。密度という概念は問題文で定義して出しましたが、ほとんどの問で高い正答率でした。一方、問9の水に浮くアルミニウムの計算問題の出来は芳しくありませんでした。また、例年に比べ問題数が多く、物理で時間を費やした受験生が多く見受けられました。

大問2: 化学のテーマは「気体の溶け方」でした。問2から問5は基礎的な事項や誘導的な問いであったため60%から70%の正答率でしたが、それ以外の問題は見慣れない問題ということもあり点数はなかなか伸びませんでした。問7の文章題は表現が拙いということではなく、問いの本質に気づけていない解答が目立ちました。このような身近なもので理科に関連したちょっとした工夫などに、日常では気づけないまでも問いで考えられるような視点は大切にしていきたいと思っています。

大問3: 生物のテーマは「脊椎動物の子孫の残し方」でした。生物は、例年このようなさまざまなデータを読み取らせて誘導的に生物の不思議さを体感できる問題を出題することが多いです。問2から問5は基礎的、誘導的な問題ですので高い正答率でした。一方、問6は三つの面からの考察でしたので差が付いた問題になりました。また最後の文章題は性差に偏りができ子孫が残せなくなるということが答えとなるわけですが、問われていることが読み取れない解答が多く見受けられました。

大問4: 地学のテーマは「地震」でした。問1から問4は基本的な問題ですので多くの受験生が正解しました。問5は地震の揺れが伝わる速さよりも遅いものを選ぶ問題でしたが、新幹線や台風、ジェット機などの速さのイメージが持っていない受験生が多く見受けられました。また、時間配分がうまくいかずに最後まで辿り着いていない受験生もそれなりにいました。

また、時間配分がうまくいかずに最後まで辿り着いていない受験生もそれなりにいました。

#### 第2回目の入試問題について

大問1: 物理分野から「てこの原理とつりあい」について出題しました。見慣れた感じの問題ですので計算が得意な受験生は高い正答率をあげていました。ただ重りをつるす位置が左端という指示が読み取れない受験生や、そこで戸惑ってしまった受験生がいたようです。

大問2: 化学分野から「ものの溶け方と温度の変化」について出題しました。こちらも見慣れた濃度計算の問題でしたので解きやすかったようです。ただ割り切れない答えが出た場合の指示に従わな

い受験生や、計算問題を飛ばして先に進んでいる受験生が一定数おり、化学分野の平均点は思ったほど伸びませんでした。

大問3:生物分野から「昆虫の生態」についての出題でした。ミツバチの8の字ダンスを取り上げて、説明文の長い問題でしたが、問い自体は易しかったせいか全体的に高い正答率でした。

問5のグラフの読み取り問題で差が出たようです。

大問4は地学分野からオリンピックをキーワードに「気候と重力」の出題でした。問3の満潮、大潮や語句の穴埋め問題は高い成功率でしたが、問1の高温多湿を答える問題は想定以上に低い正答率でした。また第1回と同様ですが、時間配分を間違え時間が足りず、地学の解答が全く書かれていない受験生もそれなりにいて、点数をだいぶ落としてしまいました。

理科では、分野ごとにテーマを持った問題作りをし、平均点が6割から7割になるように問い作っています。計算問題や文章題も出題しますが、複雑な計算をなるべく少なくし、記述は基本的な内容を聞いています。このところ、問題文が読み取れない記述をする受験生が見受けられるようになっています。何を問われているのか問題文をよく読み、理解してから作文するということ気をつけてもらいたいと思います。

・日頃から

- ① 身近なものごとに興味をもつ
- ② 物化生地バランスよく
- ③ 授業で学んだものと実生活の関連を意識

・記述問題

何が問われているかを理解し、  
過不足のない表現を！

最後になりますが、桐朋の理科では知識の詰め込みではなく、知識を身近な現象と繋げられるような、授業で学んだことと実生活の関連を意識できるような問いづくりを心がけています。従いまして、桐朋中学校を受験する6年生の皆さんには、物理、化学、生物、地学を偏りなく学ぶことはもちろんのこと、身近な物事に興味を持ち、授業で学んだものとの関連を考えられるような意識を日頃から持ってもらいたいと願っています。

<https://www.toho.ed.jp/>

## 浦和明の星 入試応援自粛のお願い

(学校配付文書より)

塾・出版社関係の皆様

2020年10月吉日

浦和明の星女子中学校

校長 島村 新

入試当日の応援自粛のお願いと入学試験問題の配布について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より本校の生徒募集に関して、ご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、2021年度の入学試験は、新型コロナウイルス感染症の感染予防に細心の注意を払って実施することが何よりも大切と考えております。その一環としてWEB出願やオンライン決済、WEB上での合格発表など、様々な対策を講じているところでございます。

このような事情から、誠に勝手ではございますが、入学試験当日の「応援」をお控えいただきますようお願い申し上げます。校内はもちろんのこと、本校正門前や公道、公園、東浦和駅周辺等につきましても、可能な限り密集状態を回避したいと存じます。受験生及び保護者の皆様の健康を最優先し、すべての受験生が安心して入学試験に臨めるよう、何卒、ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

また、例年、入学試験当日に本校事務室にて、入試問題の配布を行っておりましたが、今年度は、すべて郵送にてお願いしたいと考えております。配布をご希望の方はFAXにて依頼書(郵送先住所、依頼者、入試問題の部数)を送っていただきますよう、お願いいたします。

<https://www.urawa-akenohoshi.ed.jp/>

## 札幌聖心女子 6年生対象入試対策講座

(ホームページより)

第1回小学6年生対象入試対策講座を実施いたします。

各教科の出題方針と解き方のコツを詳しく説明いたします。

本校受験をお考えの方は、ぜひご参加ください。

日時 10月31日(土) 9:00~12:30

会場 本校(WEBでの受講も可能)

詳細 ホームページ参照

<https://spr-sacred-heart.ed.jp/>

## 秀光中学校(仙台育英) 中等教育学校から組織改編

2021年4月から秀光中等教育学校の前期課程を秀光中学校(認可申請中)に組織改編する予定です。秀光中学校(認可申請中)から秀光コースへと続く6年間の一貫教育の中で、国際バカロレア資格の取得が可能なカリキュラムによって深く学んでいきます。

2021年入学者は、秀光中学校(認可申請中)に入学し、卒業後に仙台育英学園高等学校秀光コースに進学してIBの教育を継続して履修できるほか、多様な進路(コース)も選択できるようになります。各コースへの進学に際しては、内部進学選抜を別途実施する予定です。

**トライアル入試(東京入試)**

日時 1月11日 A時程8時50分集合 B時程13時30分集合

会場 青山学院大学(青山キャンパス)

その他 A時程、B時程とも450人までの受付(出願順)。それ以上はオンライン受験に。

1次試験の検定料は無料(2次試験:面接を受ける場合は14,000円)。



新型コロナウイルスの流行状況によっては、1次試験をオンライン(自宅のPC等)で実施。  
その場合は、9インチ以上の画面で横置きでの実施を推奨。

<https://www.sendaiikuei.ed.jp/shukoh/admission/summary/>

---